ITを活用した地域医療連携は全国各地で実施され始めているが、現況は、決して全ての 事業が順風満帆だとは言えないだろう。その中で、今、注目されている連携事業が広島 の「天かける」だ。尾道市医師会を中心にプロジェクトがスタートした事業だが、病診 連携のみならず、介護、薬局までをきめ細やかにフォローした事業内容は、まさに連携 事業の手本といってよい。その成功の秘訣を、キーパーソンの方々に聞く機会を得た。

1

功

 \mathbf{V}

携

成

e

 \mathbf{W}

を

知

る

新医療 2012年7月号 (130)

例

医療・連携事業「天かける」(広島県・尾道市他)

Inte

に

医療、介護、薬一まさに包括的な連携実現。 育んできた緻密な地域連携という財産を ITがさらに強化・拡大させた好例を知る

地域における医療・介護連携の効率化や蓄積ペナイなとる通して一発展的に当該	訪問看護等在宅支援施設が参加していま	13診療所、30調剤薬局、4介護施設、3	市の一部区域)における中核病院1施設、	道医療圏(広島県尾道市、三原市と福山	O法人の「天かける」であり、現在は尾	このEHR実証実験の運営母体がNP	をスタートさせています。	金援助を受けて、昨年6月から事業活動	です。行政から平成23年度予算として資	としての「医療・介護連携事業」の推進	のEHR確立・普及に向けての実証実験	ならば、ITを活用した広域共同利用型	もあります。一言で事業内容を説明する	るフィールド2プロジェクトの呼び名で	活用基盤構築事業(※日本版EHR)におけ	産業省と連携して推進している健康情報	あると共に、総務省が厚生労働省、経済	私が理事長を務めるNPO法人の名称で	伊藤勝陽氏(以下、伊藤)「天かける」は、	徴について、お伺いします。	──まず、「天かける」の事業概要と特		伊藤 (NPO法人) (R) (R) (R) (R) (R) (R) (R) (R	
	す。これらの施設間をITによってネッ	。これらの施設間をITによってネ問看護等在宅支援施設が参加してい	。これらの施設間をITによってネ問看護等在宅支援施設が参加してい診療所、30調剤薬局、4介護施設、	。これらの施設間をITによってネ問看護等在宅支援施設が参加してい診療所、30調剤薬局、4介護施設、の一部区域)における中核病院1施	。これらの施設間をITによってネの一部区域)における中核病院1施の一部区域)における中核病院1施	。これらの施設間をITによってネ問看護等在宅支援施設が参加してい診療所、30調剤薬局、4介護施設、の一部区域)における中核病院1施に、100「天かける」であり、現在は法人の「天かける」であり、現在は	。これらの施設間をITによってネの一部区域)における中核病院1施医療圏(広島県尾道市、三原市と福医療圏(広島県尾道市、三原市と福に利益、の一部区域)における中核病院1施で、の一部区域)における小であり、現在は	。これらの施設間をITによってネ。これらの施設間をITによってネジャット、30調剤薬局、4介護施設、の一部区域)における中核病院1施医療圏(広島県尾道市、三原市と福活人の「天かける」であり、現在はこのEHR実証実験の運営母体がNスタートさせています。	。これらの施設間をITによってネ であり、現在は における」であり、現在は における」であり、現在は における中核病院1施 の一部区域)における中核病院1施 の一部区域)における中核病院1施 の一部区域)における中核病院1施	。これらの施設間を I Tによってネ 。これらの施設間を I Tによってネ であり、30調剤薬局、4介護施設、 であり、現在は に島県尾道市、三原市と福 に高調剤薬局、4介護施設、 であり、現在は に る」であり、現在は に る」であり、現在は し で あり、現在は し で あり、 の 一部区域)における中核病院 1 施 と 福 の 一部区域)における中核病院 1 施 と 福 志 と 石 の に お り る に の に お り る に の に ろ の に ろ の に ろ の に ろ の に ろ の に ろ の に ろ の に ろ の に ろ の に ろ の に ろ の に ろ の に ろ の に ろ の に ろ の に ろ の の の の	。これらの施設間をITによってネ であり、現在は このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN この「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は ため」における中核病院1施 の一部区域」における中核病院1施	。これらの施設間をITCによってネ であり、30調剤薬局、4介護施設、 の一部区域)における中核病院1施 であり、現在は に島県尾道市、三原市と福 に高県尾道市、三原市と福 に る」であり、現在は に る」であり、現在は に る」であり、現在は に る」であり、現在は に る」で あり、 の 世 客 勝 の 一部区域)に お け る 」で あ り 、 の に た か ら 平 成 3 に の に た か ら 平 成 3 に の に の に た か ら 平 成 3 に の に の に の に の に の に の に の に の の に の の に の	。これらの施設間をITによってネ 。これらの施設間をITによってネ 。行政から平成23年度予算として す。行政から平成23年度予算として す。行政から平成23年度予算として す。行政から平成23年度予算として す。行政から平成23年度予算として す。行政から平成23年度予算として での「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は に島県尾道市、三原市と福 にる であり、現在は たい における中核病院1 施 と福	。これらの施設間をITによってネ 。これらの施設間をITによってネ 。これらの施設間をITによってネ 。これらの施設間をITによってネ の一部区域)における中核病院1施 に看護等在宅支援施設が参加してい に和した広域共同利用 に看護等在宅支援施設が参加してい にない における中核病院1施 に が の一部区域)における中核病院1 施 に の 一部区域)における の に な の しての 「天かける」であり、現在は た に 本 の 一 た に 本 し て の 下 年 6 月 か ら 事 業 」 の 推 と し て の 下 年 6 月 か ら 事 業 活 、 の 一 市 と 世 で あ り 、 町 た に 本 ち の 、 に 本 た に 本 ち の 、 に 本 た た 広 本 、 の 、 で あ り 、 で あ り 、 の 、 の に お に の に あ り 、 の 、 の に あ り 、 の 、 の に お に つ た 広 城 、 の 、 の 、 の し て 、 の し の し の 、 の 、 の し っ た の の し の し の し の し の の し の し で あ り 、 の の し の の 、 の し の し で あ し っ で あ の し で 、 の し で あ し で あ り 、 の 、 の 、 の の で あ り 、 の 、 の の て 、 の っ で る の て 、 の の つ て 、 の の の て 、 の 、 の 、 の し つ て 、 の の 、 し て 、 の し て っ の 、 の し て の の う の し て の の の の し て の の の し て の の し つ し っ つ て っ の し て っ つ て っ の っ つ て っ の つ て っ つ つ っ の し つ し つ し つ し つ し つ で う か し つ て っ つ て っ つ つ つ つ つ つ て う つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	。これらの施設間を I Tによってネ 。これらの施設間を I Tによってネ	。これらの施設間をITによってネ 「「」」の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は た」における中核病院1 施設、 の一部区域」における中核病院1 施設、 の一部区域」における本核病院1 施設、 の一部区域」における本 のしてい	。これらの施設間をITによってネ 家所、30調剤薬局、4介護施設、 の一部区域)における」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は たの「医療・介護連携事業」の推 と田R確立・普及に向けての実証実 を留(広島県尾道市、三原市と福 法人の「天かける」であり、現在は たが参加してい た にお た に な の 一部区域)における中核病院1施 た に た に な の 一 に た に な の に た に た に た に な の に た た に 本 し た に の た に 本 た に の た に 本 た た 広 域 共 同 た た 広 域 大 の に の た の で の た の で の た の で の た の で の た の で の に の に の た の で の に の た の に の に の に の に の に の に の に の に の に の た 広 城 、 市 と る で あ り 、 の に る に つ た に な の で た の し て の で あ の 、 の に る し て の に た の に し た の て で あ り 、 の に し に し に し に し に し に に に た い し て た の で あ り 、 の に し 本 た に し に し に に し に し に し に し て た し の て た の で た の つ て で の に し に し に に し て た い る し て た て い の で る の て 、 の に に に に に に に た る で で の っ で た つ て で っ た つ て っ で っ で っ た っ で た っ で っ っ て っ っ っ っ た っ っ っ っ つ っ っ た つ っ で っ つ っ て っ つ て っ つ て っ つ っ つ て っ つ て っ つ て っ つ に し っ つ て っ つ っ つ つ っ つ つ っ つ っ つ っ つ っ つ っ つ っ つ っ つ っ つ つ つ つ っ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	。これらの施設間をITによってネ 。これらの施設間をITによってネ 。これらの施設間をITによってネ や の 一部区域)における」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は た広域)における中核病院1施 たる。 たたはでいます。 この たたは 本 た に お り ま た た た た た に 本 た に た に た た に 本 た に た た に 本 た に た に た た に 本 た に た に た に 本 た に 和 た た に 本 た に 和 た た に 本 た に 和 た た い を 説 に の に の に の に の に た た に の に れ に の に の に た た の に の に た に の に の に た の に れ に れ に の に た に か ら 事 業 し て の に あ り た に か ら 事 業 し て の に あ り た い し て の に お に わ に お に わ に わ た の に お に わ た の に 本 た の に た の に の に た に わ に の に た に た に た に た に れ に た の で あ た に た に た に た に た の で の た 、 に た ら た で の に し た た に た に た ら の に た た る の て た の に た る に た に た た で の の で の た に に た に た た に た の た る た に に た っ た で た っ で た っ で た て で の た っ で の た て で の た っ で っ た た て た っ た っ た っ た っ た っ た っ た っ た っ で か ら う か た ら っ で っ で っ て っ っ て っ っ て っ っ て っ て っ っ っ て ふ て っ っ っ て っ っ て っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ	。これらの施設間をITによってネ 。これらの施設間をITによってネ 。これらの施設間をITによってネ の一部区域)における上であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は た」における中核病院1施 で一部区域)における中核病院1施 におしてい におしてい しての「医療・介護連携事業」の推 た」 た」 の 一目 た に 、 の に た に に た に に に た に に た に に た に に た に に た に に に た に に た に に た に に た に に た に に に た に に た に に た に に た に に の に た に の に た に の に た に の に た に の に た に の に た に の に た に の に た に の に た に の に の に た に の に た に た に の に た に の に の に た に の に の に た に が の し に た に 本 の に の に お に の に た に お に の に る に れ に る に る に た に る に る に た に た の に る た に な し て の に れ に る に る に の に た に る に た に る に る に の に た た に し た に し た た に の し て た た に る し て た に る し に た に る に る た に た っ に た っ で の た 、 の た て っ た に に る た っ で の に た る に に た る っ で っ た っ で っ た て っ で っ た っ で っ た っ で っ た っ で た っ た っ で っ た っ っ た っ で た っ っ っ つ て っ つ て 本 た っ て っ て っ て っ て っ っ て っ っ て っ て っ っ っ つ て っ っ っ っ つ こ っ っ つ こ っ っ つ っ の こ っ っ つ こ っ っ っ っ つ っ っ つ っ っ っ っ っ つ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ	。これらの施設間をITによってネ 。これらの施設間をITによってネ 。これらの施設間をITによってネ 。これらの施設間をITによってネ 。これらの施設間をITによってネ	。これらの施設間を 日本 について、 お伺いします。 「天かける」であり、 現在 は た について、 お伺いします。 「天かける」で た に で の 一 部 医 療 勝 勝 陽 氏 (以下、 伊藤) 「天かける」 で 事 業 小 た 広 城 共 同 た た 広 城 共 同 た た た 大 の に て 、 に 、 総 務 省 が 厚 里 来 に 、 総 務 省 が 厚 里 来 (※ 日 本 版 に 一 に で い 来 (※ 一 本 版 に 一 に 、 に 、 に 、 総 務 省 が 厚 二 で 、 に 、 、 、 に 、 、 に 、 に 、 、 に 、 、 、 に 、 、 、 に 、 、 に 、 、 、 、 、 、 、 、 に 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	□ まず、「天かける」の事業概要と □ について、お伺いします。 □ について、お伺いします。 ○ これらの施設間を日尺度予算として 」 このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このFHR実証実験の運営母体がN このFHR実証実験の運営母体がN このFHR実証実験の運営母体がN このFHR実証実験の運営母体がN このFHR実証実験の運営母体がN このFHR実証実験の運営母体がN このFUI このFUI このFUII この こ こ こ こ こ た い こ 、 に に に た に 、 に た に 、 、 に 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、		
責った言なごと重じて、絶愛りて各ワークを構築し、患者情報の電子的		問看護等在宅支援施設が参加してい	問看護等在宅支援施設が参加してい診療所、30調剤薬局、4介護施設、	問看護等在宅支援施設が参加してい診療所、30調剤薬局、4介護施設、の一部区域)における中核病院1施	問看護等在宅支援施設が参加してい診療所、30調剤薬局、4介護施設、の一部区域)における中核病院1施医療圏(広島県尾道市、三原市と福	問看護等在宅支援施設が参加してい診療所、30調剤薬局、4介護施設、の一部区域)における中核病院1施医療圏(広島県尾道市、三原市と福法人の「天かける」であり、現在は	問看護等在宅支援施設が参加してい診療所、30調剤薬局、4介護施設、の一部区域)における中核病院1施医療圏(広島県尾道市、三原市と福法人の「天かける」であり、現在はこのEHR実証実験の運営母体がN	問看護等在宅支援施設が参加してい診療所、30調剤薬局、4介護施設、の一部区域)における中核病院1施法人の「天かける」であり、現在は法の「天かける」であり、現在は法人の「天かける」であり、現在は	問看護等在宅支援施設が参加してい診療所、30調剤薬局、4介護施設、スタートさせています。 の一部区域)における中核病院1施 における」であり、現在は る療所、30調剤薬局、4介護施設、	問看護等在宅支援施設が参加してい での一部区域)における中核病院1施 医療圏(広島県尾道市、三原市と福 法人の「天かける」であり、現在は 法の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は であ所、30調剤薬局、4介護施設、 診療所、30調剤薬局、4介護施設、	問看護等在宅支援施設が参加してい 診療所、30調剤薬局、4介護施設、 診療所、30調剤薬局、4介護施設、 の一部区域)における中核病院1施 における「天かける」であり、現在は しての「医療・介護連携事業」の推 しての「医療・分護連携事業」の推	旧看護等在宅支援施設が参加してい このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN における中核病院1施 と石 の一部区域)における中核病院1施	時者護等在宅支援施設が参加してい における」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は たいます。 の一部区域)における中核病院1施 と福麗(広島県尾道市、三原市と福 と石 の一部区域)における中核病院1施	問看護等在宅支援施設が参加してい このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEUA しての「天かける」であり、現在は は しての「天かける」であり、現在は	問看護等在宅支援施設が参加してい このEHR葉証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHA における」であり、現在は	問看護等在宅支援施設が参加してい における」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN	問看護等在宅支援施設が参加している健康情 業省と連携して推進している健康情 と日R確立・普及に向けての実証実 にの「医療・介護連携事業(※日本版EHR)にお にの「医療・介護連携事業」の推 との「天かける」であり、現在は このEHR実証実験の運営母体が N このEHR実証実験の運営母体が N このEHR実証実験の運営母体が N このEHR実証実験の運営母体が N このEHR実証実験の運営母体が N このEHR実証実験の運営母体が N このEHR実証実験の運営母体が N このEHR実証実験の運営母体が N	間看護等在宅支援施設が参加してい ると共に、総務省が厚生労働省、経 ると共に、総務省が厚生労働省、経 たの「天かける」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN	問 着 護 等 在 宅 支 援 防 を 受 け て 、 い ま た に お り ま す 。 一 言 で 事 業 (※ 日 本 版 E H R 確 立 ・ 普 及 に 一 た 広 城 共 同 七 た 広 城 共 同 に た た 広 城 共 同 に て の 下 を 活 明 し て い を 之 明 す 。 一 言 で 事 業 (※ 日 本 版 E H R 能 立 こ の 一 同 で で 事 業 (※ 日 本 版 E H R 能 立 こ で 一 三 で で 事 業 (※ 日 本 版 E H R 能 立 こ で 事 業 (※ 日 本 版 E H R に 立 こ で 一 一 で た 広 域 大 の 「 で 、 昨 年 6 月 か ら 事 業 」 の 一 で あ り 、 明 す 。 一 一 で 志 期 寺 来 二 一 に 広 域 共 同 に 石 の に 、 新 来 一 の 、 の 下 で あ り 、 の に 二 加 た 広 城 共 同 に つ に の 、 の 、 の 、 の 、 の に 二 加 た ら 、 の に 二 加 た に 、 成 に 一 の ら 事 業 」 の 推 た 一 た ら 事 業 」 の 推 た て の に う た ら 、 、 要 美 ら 一 た ら 本 あ ら 、 、 二 の 推 た 一 た ら 本 志 に 、 に に に に に に ん の ろ 、 、 、 の た た 本 た ろ の 、 、 の 、 、 の 、 、 の 、 、 の 、 、 の ち 本 た た の ら 事 業 に て の 、 の 本 た 、 の ら 本 た た る た の ち の ら 本 た こ の た の ち の ら 、 の う か ら う 、 の ら 本 た こ の ら 本 た ら た こ の た し て の 、 の ろ の 、 の ろ の 、 の ろ の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の う 、 の 、 の 、 の 、 の し て う 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の し こ つ 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の こ こ の 、 の 、 の こ こ の こ こ つ し こ こ の こ の 、 の こ つ こ こ の こ こ つ こ し こ こ つ こ こ つ こ つ こ こ の 、 の こ こ つ こ こ の こ こ こ こ つ こ こ こ つ こ こ つ こ こ こ こ こ こ こ こ こ つ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ つ こ こ こ つ こ し こ こ こ こ こ こ こ こ こ つ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ		間看護等在宅支援施設が参加してい このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN		まず、「天かける」の事業概要と まず、「天かける」の事業概要と について、お伺いします。 について、お伺いします。 が理事長を務めるNPO法人の名称 が理事長を務めるNPO法人の名称 このと井R確立・普及に向けている健康 を受けて、昨年6月から事業の における」であり、現在は 法人の「天かける」であり、現在は た広域共同利用 を受けて、昨年6月から事業」の推 との下田R集証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN このEHR実証実験の運営母体がN	

なお、「天かける一の名称は、実証参質の向上を図る、という計画です。	の内の運営面をサポートして連携を論初めて事業が軌道に乗るものですが、そ
加主体であるJA尾道総合病院(以下、	化・進展させるのが私たちの役目だと考
た際、外来受付に飾られた尾道市出身の尾道総合病院)が昨年5月に新築移転し	えています。
にちなんで命名しました。医療と介護を平山郁夫画伯の作品「天かける白い橋」	これまで培ってきた地域連携のーTによる地域医療連携の実現は、
名だと思いますね。 橋渡しするという我々の思いに相応しい	基盤があってこそ
佐野弘子氏(以下、佐野) NPO法人「天	──「天かける」の連携事業が順調に雌
「ネットワークを介した芼道の医療・介かける」の位置づけを説明しますと、I	でしょうか。 能している理由を挙げるなら、それは何
護連携における、事務局的な役割を果た	片山 壽氏(以下、片山) IT化以前
しています。地域連携で最も難しいポイ	から取り組んできた地域連携の基盤があ
ントは、設立母体と分野が異なる多施設	ったことが大きな理由の1つでしょう。
ての統合性を取らなければならない点にとの意見の刷り合れせを行い。事業とし	根を越えた「尾道市医師会方式」と呼ば尾道医療圏では。勤務医と開業医の長
あります。医療や介護に関わる多職種の	れる地域医療連携システムを、推進して
ニーズを、中立的な立場で調整しながら	きました。そのルーツは、1991年に活
事業を推進する運営組織が「天かける」	動が始まった救命救急医療における病診

伊藤

~連携・結束・互助↓

は、

伝統的

たのではないでしょうか。

総務省が実証実験のひとつに選んでくれ	いるという尾道医療圏の実績を評価して、	多くの分野において地域連携が確立して	森本茂人氏(以下、森本) 同感です。	しているのだと思います。	こそ、「天かける」の事業が順調に推移	事者のニーズとしてITを導入したから	が構築されており、それを支える医療従	つまり、アナログ方式による地域連携	以前から注目していたのです。	援の効率化に貢献するツールとして	すが、ITはそうした作業や患者支	になり、我々の課題でもあったので	ていくかが、非常に重要なポイント	に効率的に患者支援の質を向上させ	事者の作業負担を減らしつつ、いか
--------------------	---------------------	--------------------	--------------------	--------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	----------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

師

介護福祉士など、多忙な医療従

動けるということで、尾道医療圏における 面は否定できません。 NPO法人ならば 動力に乏しく、しかも先行きが不透明な ストなのですが、予算計上などの面で機 の広域事業に取り組んでもらえるのがべ です。本来ならば行政が率先してこの種 いう高いハードルを越えるのは至難の業 があっても、地域レベルで資金の確保と 個々の施設の共通認識として構築の意志 には非常に高額な初期投資を要します。 HRありきのIT連携」ではありません。 ねた成果のひとつなのです。「日本版E 性を実感し、一丸となって導入検討を重 てITを活用した情報交換通信網の必要 ルでもあるのです。今回のプロジェクト に尾道医師間のコミュニケーションツー 行政への予算申請ができて、かつ身軽に への参加は、地域の医師が将来を見据え 周知の事実として、広域IT構築事業



の確立と組織の運営という両輪が揃って

は、

病院主治医と在宅主治医、

訪問看護

ITによる地域連携は、

ネットワーク

です。運営面では他に、行政からの予算 獲得後の様々な調査、報告等の支援を行

連携の

「救命蘇生委員会」ですが、代表的

な例としては、在宅主治医を中核とした

在宅医療の地域連携が挙げられます。 在宅医療に必須の多職種連携において

っています。

「天かける」では、地域医療連携ネットワークサ ビス の「ID-Link」を使い、地域全体における地域中核病院・ 診療所・調剤薬局・介護施設等間で、患者の医療・介護 情報を安全かつ簡易に共有・活用できるシステムを構築。 地域中核病院は処方・注射・検査・画像などの医療情報 調剤薬局は調剤情報等を、診療所は処方・注射情報 を、 等を開示。ネットワークに加入している医療機関や介護 施設は、これらの開示情報を閲覧することで、情報共有 による医療・看護・介護サービスの質の向上と効率化を 実現している。写真は、同地域の中核病院であるJA尾道 市総合病院(上)と、NPO法人名の由来となった同院1 階受付ホールに飾られている平山郁夫画伯の「天かける 白い橋 瀬戸内しまなみ海道」

機能させることが 高齢者医療では医療と介護を合せて かける」の広域ネットワーク事業が順調 工基盤整備などの

相乗効果によって、「

天 の取り組み、 て、医療従事者の総意としてのIT化へ ることになり、 年の新築移転の際に電子カルテを導入す が参与を務める尾道総合病院も2011 子カルテを導入していました。続いて、私 である尾道市民病院は、6~7年前に電 かける」を立ち上げることにしたのです。 高齢患者のQOL支援に有益 に進んできているのだと思います。 「天かける」発足の契機となりました。 広域IT化の先導役としてNPO法人「天 IT基盤が整備されたこともNPO法人 従来からの地域連携の確立を基軸とし 急性期医療を支える中核病院のひとつ 地域の中核病院におけるI 地域の中核病院における 片山 現在では30・8%にまで上昇しています。 ませんし、 圏を挙げて医療連携だけではなく、医療と 齢患者のQOL支援が非常に非効率にな と介護が別々に機能していたのでは、高 が進んでいるのです。 全国平均よりも15年も先んじて、 達しており、 圏の実情が要求しているからです。尾道 きな特徴となっています。 ではなく介護まで包括していることが大 高齢患者の支援において何ら意味をなし みのIT連携を目指すとしたら、それは 介護との連携構築も実践していたのです。 な事態を招かないように、早期から医療 ってしまいます。尾道市医師会はこのよう 市の高齢化率は94年にすでに19・24%に 仮に「天かける」の事業で医療分野の 高齢者医療の先には介護があり、 **^急速な高齢化〟という尾道医療** 今までの努力を無にすること 2000年には23・2%、 (いとう・かつひで) 、高齢化 医療 道総合病院参与 佐野運営母体としての立場から言うと、 しょうか。 技術的にはどのような点に留意したので ったはずです。 運用がカギ

システムの安全性と低コストによる そらく医療従事者の誰の頭の中にもなか と、片山先生が指摘されたように、介護 のです。そのような地域の実情を鑑みる 私は有床診療所の他にグループ施設とし 吉原久司氏(以下、吉原) 我々開業医も「天かける」の主旨に賛同 を抜きにしたIT連携という発想は、お 齢化は予想を超える勢いで進行している 痛感して経営に乗り出すほど、 ますが、一開業医が老健整備の必要性を て介護老人保健施設を2施設経営してい したのです。 ー
ー
ネット
ワーク
構築
に
は 地域連携ネットワーク構築に際し、 同感です 地域の高

料)です。 nkサービス利用料+VPNサービス料)、 と思います。情報開示施設である急性期 施設の負担にならない水準に達している グコストの面でも優れ、その金額は参加 用したのですが、このシステムは前述し 果、「天かける」では「ID-Link」を採 りました。厳しい詮議を重ねていった結 なシステムを構築したいという思いがあ ドラインをクリアした上で、価格が安価 様々なシステムにおける安全管理のガイ 機器の安定運用に対する信頼性があり、 ても優れていると思います。 療所は、月額980円(VPNサービス 電子カルテを持たない情報閲覧のみの診 病院の月額負担は月額約9万円(ID-Li た要件をクリアするに加えて、ランニン ID-Linkは、情報管理の技術面にお 尾道市医師

ドラインに沿ったエビデンスの高い患者 て包括的なチーム医療を目指すための 会には、開業医が急性期病院と一体化し 主治医3原則」があります。そのガイ



卜茂人氏 (もりもと・しげと)

「天かける」の事業では、医療だけ

たシームレスなIT連携だからこそ

になりかねません。医療と介護を包括し

1953年広島県生まれ。79年金沢医科大学卒 同年岡山大学附属病院第一内科、津山中央 病院内科、国立岩国病院消化器内科医長を 経て、1993年より医療法人森本医院院長。 平成7年より尾道市医師会理事、04年同副 会長、12年より会長を務める

Ι i n t e v e w r



(1946年広島県生まれ。72年広島大学医学 部医学科卒。89年同大学医学部教授、02年 に広島大学病院副院長。10年にJA尾道総合 病院院長、11年特定非営利活動法人「天か ける」理事長、総務省健康情報活用基盤構 築事業協議会地域協議会会長。12年JA尾 ITによる医療連携成功事例を知る

1	要なことですね。
	確保という面において、とても大切で重
	ます。これは、医療の効率化と安全性の
	情報のみを共有するスタイルになってい
シードアクレ	整合性が取れていて、患者治療に必要な
パジイ	ける診察の施行と、情報発信・閲覧との
	いています。結果として、臨床現場にお
	テムを作り上げて熟成させていったと聞
	が密接にコンタクトを取りながら、シス
	道南MedIkaは、臨床現場とベンダー
	テムを上手く活用していましたね。
会が多ければ多いほど安心できますから	区の道南MedIka(メディカ)ではシス
に立って考えると、自身の情報の閲覧機	し、実際に見学に訪れた北海道・函館地
立って増えていくでしょう。患者さん側	院の副院長が以前から評価していました
ですが、患者さんの閲覧希望は今後、目	片山 ID-Linkについては、尾道市民病
もないため情報閲覧はまだ件数が少ない	した展開に進んでほしいと願っています。
森本 当院はID-Linkと接続を始めて間	の負担額も低減されますから、ぜひそう
まれます。	すし、参加団体が増えれば一施設当たり
開示ができるシステムの実用化が待ち望	は現段階よりもはるかに少なくて済みま
ます。IT基盤を未整備の施設でも情報	用がカットされれば、ランニングコスト
達されない点が、今後の課題としてあり	出てくるのではないでしょうか。更新費
所側の情報がリアルタイムで病院側に伝	P型、あるいはSaaS型のシステムが
の検査や画像の情報交換ができず、診療	側がサーバーを更新する必要のないAS
子カルテを持たない診療所とは双方向で	続けていけば、おそらく5年後には使用
とても良いです。ただし現時点では、電	佐野 医療ITがこのまま急速な進化を
すが、閲覧する開業医の先生方の評判は	させないですね。
かかりつけ医に開示する立場にあるので	定ですから、経営的にも全く重荷と感じ
院として、血液や画像などの検査情報を	メール利用料とさして変わらない料金設
伊藤 尾道総合病院はIT連携の中核病	森本 月額980円は、モバイル端末の
聞かせください。	有用であると実感しています。
びに医療分野における活用の有用性をお	ており、ITベースの地域連携に非常に
を経て、IT連携を実践しての感想、並	院)」できるネットワークの技術を備え
――「天かける」の事業始動から約1年	情報を「分散保管(診療所)、一元管理(病

いほど安心できますから	と、自身の情報の閲覧機	くでしょう。患者さん側	んの閲覧希望は今後、目	閲覧はまだ件数が少ない	-Linkと接続を始めて間		ステムの実用化が待ち望	を未整備の施設でも情報	、今後の課題としてあり	アルタイムで病院側に伝	情報交換ができず、診療	ない診療所とは双方向で	。ただし現時点では、電	開業医の先生方の評判は	開示する立場にあるので
の時期も早まることにもなり	情報を確認することで、退院	後方支援側が先回りして患者	んの病症に対する説明ができ	ご家族が先に到着したとして	療のイメージを構築しておけ	かじめ患者さんの画像情報を	同伴で自宅に戻る場合、担当	例えば、病院からの紹介患	最も参考になりますね。	さんの画像情報が事前に閲覧	診療所の立場から言うと、入	片山 緩和ケアを引き継ぐ在	いへん便利だと感じています	比較検討する目安にもなりま	ての参照になりますし、当院

	心できますから	の情報の閲覧機	り。患者さん側	電望は今後、 目	に件数が少ない	返続を始めて間		天用化が待ち望	
SF	の時期も早まることにもなります。	情報を確認するこ	後方支援側が先回	んの病症に対する	ご家族が先に到着したとしても、	療のイメージを構	かじめ患者さんの	同伴で自宅に戻る	
R 医科大学 浮を経て、 2年まンター 9回保健文 会参与・初代 り岡山大学	とにもなります。	情報を確認することで、退院=在宅復帰	後方支援側が先回りして患者さんの画像	んの病症に対する説明ができます。また	したとしても、患者さ	療のイメージを構築しておけば、たとえ	かじめ患者さんの画像情報を閲覧して診	同伴で自宅に戻る場合、担当医師があら	

ての参照になりますし、当院での治療を 院から紹介された患者さんの診察に際し 録数が増加するでしょうし、 という利点が浸透していけば、確実に登 ね。 ってほしいと思っています。 医師としての立場では、情報閲覧は病 患者さん自身の受診効率も向上する 6すから、た またそうあ 者がご家族 できる点が 宝医療支援 ´0 ば、たとえ 閲覧して診 医師があら 院時の患者

片山 壽氏 (かたやま・ひさし)

いう面において有用です。

示できる機能も、介護患者の情報共有と 情報という形でなら情報を連携施設に開 護施設でも、文書やファイル、テキスト ても重要です。電子カルテを未導入の介

1949年広島県生まれ。74年東京 卒、済生会川口総合病院内科勤務 84年片山医院院長。00年より12 道医師会会長。07年国立長寿医療 在宅医療推進会議委員、同年第59回保健文 化賞受賞。12年より尾道市医師会参与、尾 道市医師会地域医療システム研究所・初代 所長兼主任研究者就任。08年より岡山大学 医学部臨床教授

治医間の情報共有の精度は、さらに高まきるようになれば、病院主治医と在宅主	ームドコンセントの情報が瞬時に閲覧でその項目をクリックするだけでインフォ	という項目を設定してはどうでしょうか。覧機能に「インフォームドコンセント」	れるべきです。そのためには、例えば関て受けられる医療のために、的確に使わ	患者情報は、患者さんが完全に納得しとつなのです。	の緩和ケアにおける重要なポイントのひ	とそれによる患者さんの納得は、終末期	ないことが肝要です。正確な情報の提供	ムドコンセントの内容に食い違いが生じ	主治医と在宅主治医におけるインフォー	在宅医療における病診連携では、病院
	治医間の情報共有の精度は、さらに高まきるようになれば、病院主治医と在宅主	治医間の情報共有の精度は、さらに高まきるようになれば、病院主治医と在宅主ームドコンセントの情報が瞬時に閲覧でその項目をクリックするだけでインフォ	治医間の情報共有の精度は、さらに高まきるようになれば、病院主治医と在宅主ームドコンセントの情報が瞬時に閲覧でその項目をクリックするだけでインフォという項目を設定してはどうでしょうか。	治医間の情報共有の精度は、さらに高まという項目をクリックするだけでインフォームドコンセントの情報が瞬時に閲覧でその項目をクリックするだけでインフォという項目を設定してはどうでしょうか。こそのためには、例えば閲	治医間の情報共有の精度は、さらに高またの項目をクリックするだけでインフォームドコンセント」覧機能に「インフォームドコンセント」覧機能に「インフォームドコンセント」でしられる医療のためには、例えば関ロムドコンセントの情報が瞬時に閲覧でその項目をクリックするだけでインフォームドコンセントの情報が瞬時に閲覧でものです。	治医間の情報共有の精度は、さらに高またの項目をクリックするだけでインフォームドコンセント」覧機能に「インフォームドコンセント」覧機能に「インフォームドコンセント」覧機能に「インフォームドコンセント」をの項目をクリックするだけでインフォームドコンセントの情報が瞬時に閲覧でもるようになれば、病院主治医と在宅主きるようになれば、病院主治医とのとの緩和ケアにおける重要なポイントのひ	治医間の情報共有の精度は、さらに高ま とつなのです。 とつなのです。 とつなのです。 とつなのです。そのためには、例えば関れるべきです。そのためには、例えば関れる医療のために、的確に使わて受けられる医療のためには、例えば関れるべきです。そのためには、例えば関たいう項目を設定してはどうでしょうか。 覧機能に「インフォームドコンセント」 にようになれば、病院主治医と在宅主 きるようになれば、病院主治医と在宅主 きるようになれば、病院主治医と在宅主	治医間の情報共有の精度は、さらに高ま とそれによる患者さんの納得は、終末期 とそれによる患者さんが完全に納得し とつなのです。 をのすりられる医療のためには、例えば関 れるべきです。そのためには、例えば関 て受けられる医療のために、的確に使わ て受けられる医療のために、的確に使わ て受けられる医療のためには、例えば関 で受けられる医療のためには、例えば関 で受けられる医療のためには、例えば関 で受けられる医療のためには、例えば関 で受けられる医療のためには、例えば関 でしょうか。 その項目をクリックするだけでインフォ という項目をかしてはどうでしょうか。	治医間の情報共有の精度は、さらに高ま とつなのです。正確な情報の提供 とつなのです。 したかにおける重要なポイントのひ とつなのです。 その項目をかしためには、例えば関 れるべきです。そのためには、例えば関 れるべきです。そのために、的確に使わ て受けられる医療のために、的確に使わ て受けられる医療のために、的確に使わ て受けられる医療のために、的確に使わ て受けられる医療のためには、例えば関 て受けられる医療のためには、例えば関 で受けられるになったか。 とつなのです。 その項目をかり でしてはどうでしょうか。	治医間の情報共有の精度は、さらに高ま 治医間の情報共有の精度は、さらに高ま とそれによる患者さんの納得は、終末期 とそれによる患者さんの納得は、終末期 とつなのです。 患者情報は、患者さんが完全に納得し て受けられる医療のためには、例えば関 て受けられる医療のために、的確に使わ て受けられる医療のために、的確に使わ て受けられる医療のためには、例えば関 で受けられる医療のために、的確に使わ て受けられる医療のために、的確に使わ て受けられる医療のために、的確に使わ て受けられる医療のために、的でしょうか。

医療・介護の質の向上に貢献 共存ででして

ます。また、 も、患者さ

9	间	尽	1-	ç	
9役割は、介護の質向上においてもと	间に 閲覧できるネットワーク 連携が 果	尿 患者さんの調剤履歴や診療履歴が	について、お伺いします。	てーT連携を実践していることの有用	- 「天かける」が介護施設や薬局を含
割	閲	思	5	Ţ	ᄎ
は、	覓	省	र्	潶	か
``	C	Š		携	け
介	ğ	h	Ð	<u></u>	5
謢	Ś	()	侗	実	
0)	不	調	ŝ	践	が
質	"	剤	Ļ	L	①
回	1	腹	Ŧ	7	謢
£	7	歴	र	5	卼
12		P	0	3	設
お	2	診		2	や
13	連	療		٤	玊
7	携	履		<i>о</i>	局
\$	が	歴		有	を
と	果	が		用	含

吉性め

事

たエ



吉原久司氏 (よしはら・ひさし)

藤原鎌足より18代・藤原親能(ちかよし) を始祖とする尾道吉原家第39代当主。74年 日本大学医学部卒。岡山大学医学部第一外 科学教室入局、尾道市立市民病院外科勤務 等を経て、85年吉原胃腸科外科を開業。以後、 介護老人施設シルバーケア・ヨシハラ、認 知症高齢者グループホーム シクラメン、介 護老人保健施設シラユリ、高齢者生活支援 ハウスバラ苑を開設

あり、 それだけに、療養期・回復期病院への早 援に、非常に有用であると感じています 予防や生涯を通じた患者さんのQOL支 が確立していることは、 総合的・複合的に患者さんを守る仕組み 域の中で、医療から介護まで切れ目なく 画像などの情報を伝達してくれないと、 この部分が情報開示施設となって検査や 的支援で優遇されていないという事情も という厳然たる事実が挙げられます。 介護施設に移る患者さんはまずいない 由の1つとして「急性期病院から直接、 報を介護施設が完全な形で把握しきれな 医療・介護連携が構築されています。地 不完全なものになりがちなのです。 介護施設における情報のアップデートが い点は、課題でしょうね。その大きな理 人院する療養型・回復期型の病院は、公 尾道医療圏ではすでにアナログ方式の 介護施設へ入所する直前に患者さんが ただし、現段階では入所直前の患者情 電子カルテの導入が遅れています ^連携難民∜の

片山 照ツール、として捉えれば、「天かける」 期 道な努力は、 した画像は、 画像情報の伝達は、有用性が高いと考え の通信網は医療と介護の橋渡しとして十 は言えません。視点を変えて、まずは共 体制では医療・介護のIT連携は完全と の管理と開示という観点では、確かに現 つはずです。 した小規模な連携から取り組んでいく地 たしてくれると思うのです。まずはそう めの支援ツールとしての役目は十分に果 んが、患者さんに説明して安心を得るた ています。 分に活用できるのではないかと思います 有する情報を診断ツールではなく、〝参 その際、 の電子カルテ普及を切に望みます。 住民=患者、被介護者からの すべての施設における患者全情報 例えばモバイル端末を介した 介護の現場でスタッフが撮影 もちろん診断には使えませ 必ず患者さんのために役立 「天か

ける」に対する声には、どのようなもの――住民=患者、被介護者からの「天か

問には、何と96%の人が「頑張ってほし 佐野 片山 っている」と答えました。そして、 ちですか」という問いに、77%の方が「持 ですが、一つ目の「かかりつけ医をお持 当するという機能分化を、行政が奨励す がありますか。 今後、拡充してほしいですか」という質 かける」の概要を説明した後に「事業を の100人に質問に答えていただいたの ました。 ートでは、 院祭会場で「天かける」が行ったアンケ と好意的に捉えてもらっているようです。 業もそうした医療改革の延長線上にある 段階的に続けてきたので、「天かける」の事 者本位の医療の推進を目標とした改革も る数十年も前から実践してきました。患 療にあたり、診療所が後方支援施設とし 性期医療に特化して重篤な患者さんの治 い」と答えてくれたのです。この結果は、 て回復期や終末期医療を在宅ベースで担 ランダムに抽出した10代から90代まで 尾道総合病院新築移転1年後の病 尾道医療圏では、急性期病院が急 非常に興味深い回答が得られ 灭天

すが、同じ在宅医療を行う医師として、 森本 課題というよりも要望に近いので お聞かせください。 ――すでに「天かける」の課題を指摘す

期待の表れ、と私共では受け止めています

「天かける」に対する市民の関心の高さと

森本 片山 に参加をどう促していくか、という課題 ける」の事業に、消極的賛成、の開業医 になってくるでしょう。 管理・閲覧できるシステムの整備が必要 開発を某社に依頼しているのです。「天 で電子カルテやパソコンに送信しておけ と思います。 連携効果が形となって現れるのはないか 設の従事者と安心してコンタクトできる も不安が残ります。やはり「天かける」 全くありませんし、セキュリティの面で 換・閲覧できるシステムを、ぜひとも 訪問看護やヘルパーなどと患者情報を交 を確保した上で、モバイル端末を介して には、全面的に賛成です。セキュリティ 末の活用に対する先の片山先生のご意見 た院外の情報を広範囲の部門にわたって かける」は次のステップとして、こうし も可能になります。 ば、診療データとして蓄積しておくこと 分を入力し、後で文章化・校正をした上 ば、「音声入力」で診療のポイントとなる部 ても有効に活用できると思います。 ようになって初めて、医療と介護のIT に先鞭をつけてもらい、すべての介護施 能でしょうが、個人レベルでは発展性が 設と部分的に連携するのは現段階でも可 かける」で作って欲しいですね。 介護との連携ツールとしてのモバイル端 個人でモバイル端末を用意して介護施 実は今、医療向け音声入力のシステム モバイル端末は、 尾道医師会の会長としては 在宅医療にお 「天か 例え 天

ITによる医療連携成功事例を知る

検討することもできます。	を活用した連携に有用な情報の開	まで閲覧施設だった介護施設が、電子カ	た一歩前進するのは確かでしょうね。今	尾道における医療・介護のIT連携がま	備の推進待ちという課題はあるにしても、	養型・回復期型病院におけるIT基盤整	それが実用化された暁には、前述した療	に仕上がりそうだという実感があります。	ている最中で、非常に完成度の高い製品	の機器をITベンダーに開発してもらっ	能を簡略化したリハビリ中心、介護中心	は現在、医療向けの電子カルテよりも機	吉原 介護施設のITシステムに関して	いて、所感をお聞かせください。	──「天かける」事業の今後の展望につ	- Tシステム開発が望まれている		友・ヘー産を拒心又	してくれれば、と考えています。	録という形で「天かける」の事業に参加	思います。そして、市民の全員が患者登	っになれば、また状況は変わってくると	ないのですか」という声が寄せられるよ	して「先生の施設は、まだ参加されてい	れて、患者さんの方から不参加施設に対	伊藤 「天かける」が地域で広く認知さ	迷っている医師も中にはいるのです。	してくれていても、個々の事情で参加を	もあります。「天かける」の趣旨に賛同
--------------	-----------------	--------------------	--------------------	--------------------	---------------------	--------------------	--------------------	---------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	---------------------------	-----------------	--------------------	------------------	--	-----------	-----------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------------

片山 森本 祉センターとの連携を図り、 ので、技術的には可能です。 院とも既に電子カルテを導入されている 期病院にも広げて欲しいものです。 が、 第では、 示施設は現状では尾道総合病院のみです んでいくでしょうね。中核病院の情報開 施設をいっそう拡大させていく方向に進 に近づいているだろうと予想しています しなければなりません。IT技術の進化次 記録性の向上は今後、 公立みつぎ総合病院は以前から保健福 なるべく早い段階で残る2つの急性 連携強化を目的として、情報開示 IT連携の効率化と省力化、 数年後には我々の理想とする形 もっともっと推進 予防から医 **2**病 及び

ょうが、 を介した診診連携も推進すべきなのでし 施設になれば「天かける」の連携機能が ていますから、同院が参加して情報開示 ージョンアップするのは確実です。 後方支援側に関しては、 介護に至るまでの連携体制を構築し 開業医は高齢者の方も多いので、 本来ならIT

バ

佐野 近年、安定稼働を前提とした上で 進していく形が、今後の「天かける」の 薬局から情報開示の体制を整備し、その とても大事ですから、まずは病院と調剤 高いと思います。多施設間の情報共有は 開示を優先した方が、連携の波及効果は れませんね。それよりも調剤薬局の情報 っています。 運営においてベターなのではないかと思 実績をもとに診療所のIT基盤構築を促 なかなか思うように事が運ばないかもし

程であり、技術的にまだまだ不確定要素 臨床現場の普遍的なニーズとしては成立 す。 の時代到来が現実味を帯び、 安価なITシステムが提供される。普及 のない完成された技術を欲しているので しません。臨床現場は診療を妨げること を内包しているのは確かだと思います。 はまさにその好機に発足できたと言えま んなに先進的なものであったとしても 未成熟のIT技術は、たとえそれがど とはいえ、 医療ITは未だ進化の過 「天かける



佐野弘子氏 (さの・ひろこ)

進を続けてまいります。

(文責・編集部)

評価されるように、今後もいっそうの精

1960年京都府生まれ。81年京都女子大学 短期大学部卒。コンサルタント会社等を経 て、06年財団法人 医療情報システム開発 センター主任研究員、11年特定非営利活動 法人「天かける」理事、12年社団法人 医 療情報安全管理監査人協会副会長

療	医	L	に	\sim		に	数	連	的		0	市	在	て	剤	9	お		借	初	Ş	用	伊	る	の	師	て	さ	現	す
•	師	た	_	の	尾	努	字	携	の	も	達	民	院	61	薬	``	っ	数	ŋ	の	在	L	藤	で	_	の	61	れ	場	か
介	会	0	第	真	道市	力	と	に	第	ち	成	病	日	ま	局	平	l	値	L	目標を	宅	た		l	天	天	け	た	\mathcal{O}	5
護	方	Ι	59	摯	市	L	い	お		ろ	に	院	数	す	1	成	や	目	な	標	医	発	天	よ	か	か	れ	製	要	`
連	£	Т	П	な	医	τ	う	け	義	\mathcal{k}	も	は	を	0	0	26	5	標	が	を	医療笑	発展	,	う	け	け	ば	品	要望	今
連携	\$	基盤	保	取	師	61	形	る	で	`	尽	15	同	そ	0	年	れ	と	5	``	等	的	かけ	ね	る	る	2	を	を	後
モ	Ň	盤	健	ŋ	会	く	で	本	は	数	力	日	年	Ø	%	度	た	L	`	参	()	な	2	0		4	老	供	積	は
デ	-	を	文	組	は	`	分	来	な	値	L	以	末	他	の	末	医	τ	着	加	充実	地	5		の	と	ž	給	極	く
ル	不	整	化賞	み	`	と	か	の	く	且	τ	下	ま	`	Ι	ま	薬連	は	着実	団	夫	域	1+		事	43	7	l	的	ン
	ッ	備	賞	が	そ	43	ŋ	目	`	標	61	と	で	尾	Т	で	連		に	体	強	医	は		業	う	vi	T	に	ダ
と	1	L		評	れ	う	Þ	標	医	の	き	す	に	道	基	ĸ	携	先	達	Ø	뀐	療	フ谷		活	役	ŧ	も	働	1
L	7	た	を受	価	ま	2	す	達	療	ク	ま	る	12	総	盤整	診療	5	ほ	成	皆	١'n	•	12		動	Ē	5	5	き	ĸ
Ţ	ļ	新	受	さ	で	と	<	成	•	IJ	す	と	H	合	整	療	揭	と	L	さ	と	介	Ð		ĸ	Ł	<i>`</i> °	Ĵ.	か	そ
内	2	生	賞	れ	Ø	で	示	D,	介	P	0	くう	以	病	備	所	げ	森	て	\mathcal{K}	43	護	"		不	`	/	方	け	2
外	時	•	13	て	地	す	せ	度	護	が		?	下	院	を	50	5	本	61	<i>の</i>	う	連	Ι		可	2	企	向	て	Ļ
で	代	尾	た	`	域	0	る	合	の	事		た	_`	の	目	%	れ	先	き	力	設	携	Т		欠	n	業	ĸ		た
高	Ø	道	Ļ	07	医		よ	61	Ι	業		目	尾	平	指	ì	7	生	ま	\$	立	ĸ	を		ĸ	か	ح	持	完	臨
<	医	市	キ	匥	瘠		う	な	Т	E		楆	渞	抣	1.	調	お	が	+	お	当	ŀ	活		to	ĥ	医	2	귮	床